

★話題－天然記念物の牛を食べる！？

黒毛和牛は純血の日本在来種ではないというのは畜産関係者ならご存じのことと思います。では、純粋な「和牛」はまだいるのでしょうか。現在、純粋な日本在来種は見島牛と口之島牛の2種類だけと言われ、それぞれの地域限定の血統となっています。これらの牛は天然記念物となっているため、そのままと畜することはできませんが廃用や去勢となって島外で飼育直しをされれば話は別。通常のと畜が可能となります。とはいえ、もともと頭数が少ない上に体格も小さい種なので、その肉にありつけるチャンスはそう多くはないようです。

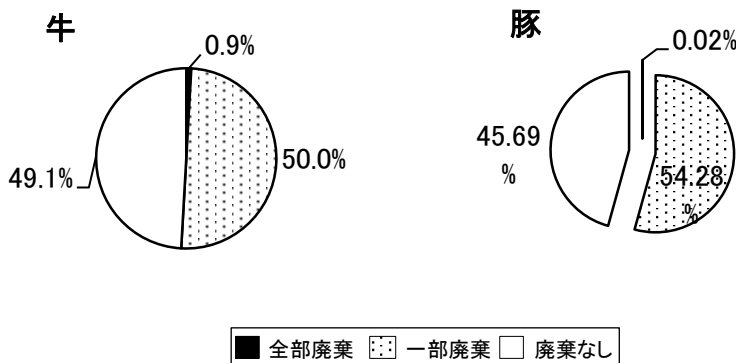
幻の天然記念和牛…、一度は食べてみたいですね。(F)

★と畜検査状況

◎と畜検査頭数および廃棄の原因 (令和5年4月～6月)

畜種	牛		とく		豚		山羊		
	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	
と畜検査頭数	1,224		4		16,615		3		
実頭数	11	612	0	3	4	9,019	0	0	
廃棄の原因	放線菌症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミコバクテリウム症	0	0	0	0	0	78	0	0
	ジストマ	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫症	0	0	0	0	0	0	0	0
	膿毒症	0	0	0	0	3	0	0	0
	敗血症	3	0	0	0	0	0	0	0
	尿毒症	1	0	0	0	0	0	0	0
	黄疸	0	0	0	0	1	0	0	0
	水腫	1	98	0	2	0	22	0	0
	腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0
	炎症汚染	0	400	0	2	0	6,617	0	0
	変性萎縮	0	258	0	0	0	2,991	0	0
	牛伝染性リンパ腫	6	0	0	0	0	0	0	0
	豚丹毒	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	96	0	2	0	1,034	0	0
計	11	852	0	6	4	10,742	0	0	

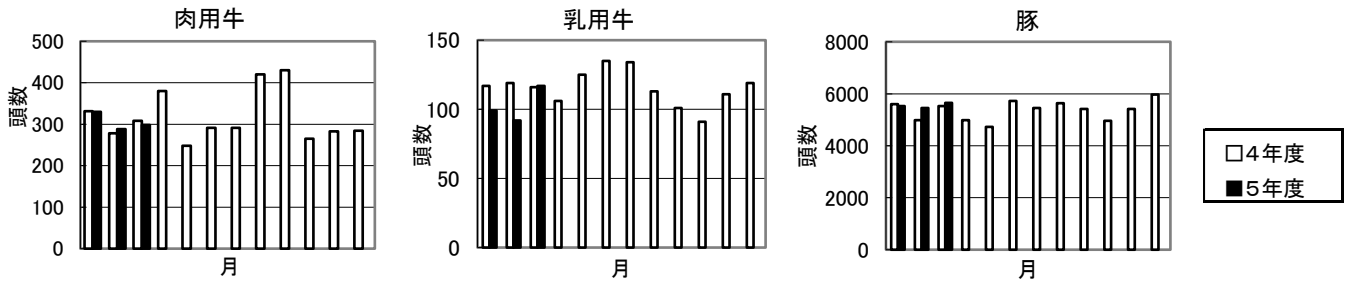
一部廃棄は原因が複数にわたる場合があり、廃棄の原因の合計が実頭数を上回ることがある。



◎と畜検査頭数の推移（令和5年度）（とくを除く）

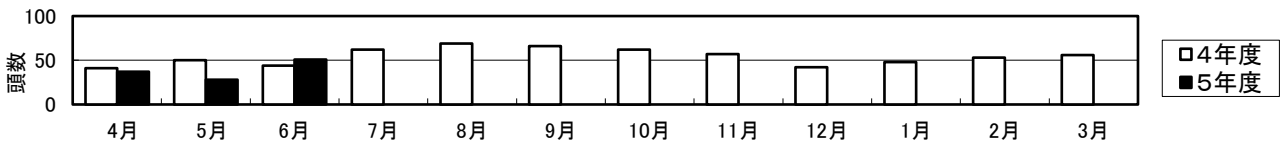
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4年度肉用牛	331	278	308	380	248	291	291	420	430	265	283	284	3,809
5年度肉用牛	330	288	298										916
前年比(%)	99.7	103.6	96.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0
4年度乳用牛	117	119	116	106	125	135	134	113	101	91	111	119	1,387
5年度乳用牛	99	92	117										308
前年比(%)	84.6	77.3	100.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
4年度豚	5596	4989	5528	4982	4731	5721	5457	5633	5416	4964	5420	5969	64,406
5年度豚	5521	5448	5646										16,615
前年比(%)	98.7	109.2	102.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.8

肉用牛は黒毛和種、交雑種等、乳用牛はホルスタイン種、ジャージー種等である。



◎病獣畜と畜検査頭数（令和5年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4年度	41	50	44	62	69	66	62	57	42	48	53	56	650
5年度	37	28	51										116
前年比(%)	90.2	56.0	115.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.8



4月～6月の病獣畜116頭の内訳は、牛およびとくが85頭、豚が31頭であった。

◎時間帯別病獣畜と畜検査頭数（令和5年4月～6月）

受付時間	頭数	うち緊急性		頭数割合(%)
		なし	あり	
(時間外)6:00～8:30	14	14	0	12.1
(時間内)8:30～14:00	99	99	0	85.3
(時間外)14:00～16:00	0	0	0	0.0
16:00～20:00	0	0	0	0.0
土曜日等	3	3	0	2.6
合計	116	116	0	

※土曜日等に病獣畜が搬入されるのは、死に瀕している等、緊急性を要する場合のみである。

◎地域別病獣畜と畜検査頭数（令和5年4月～6月）

地域	岡山	東備	倉敷	井笠	高梁	阿新	真庭	津山	勝英	県外	場内	計
頭数	14	1	1	43	9	3	5	3	1	2	34	116
(うち時間外)	(1)	(1)	0	0	0	0	0	0	(1)	(2)	(12)	(17)
頭数割合(%)	12.1	0.9	0.9	37.1	7.8	2.6	4.3	2.6	0.9	1.7	29.3	

☆検査室等における精密検査（令和5年4月～6月）

畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数	
			肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学	遺伝子			病理組織
牛及びとく	3	敗血症			24				3	0	
	0	膿毒症							0	0	
	3	尿毒症					3		1	2	
	0	高度の黄疸							0	0	
	1	高度の水腫	1						1	0	
	6	牛伝染性リンパ腫					6	65	6	0	
	0	腫瘍の多発							0	0	
	13	計	1	0	24	0	9	0	65	11	2
	豚	0	敗血症							0	0
3	膿毒症	3							3	0	
0	尿毒症								0	0	
1	高度の黄疸						1		1	0	
0	高度の水腫								0	0	
0	豚丹毒								0	0	
0	白血病								0	0	
4	計	3	0	0	0	1	0	0	4	0	

解体検査で判定困難な疾病について、精密検査を実施し、食用の適否を判定している。

◎残留有害物質検査（令和5年4月～6月）

・保留畜・病畜スクリーニング

畜種	区分	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数	陽性検体数					陰性検体数
						筋肉	腎臓	注射痕	乳房	その他	
牛・とく	保留	5	10	5	0	0	0	0	0	0	10
	病畜	85	170	85	0	0	0	0	0	0	170
豚	保留	6	12	5	1	0	1	0	0	0	11
	病畜	28	56	27	1	0	1	0	0	0	55
山羊	保留	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病畜	3	6	3	0	0	0	0	0	0	6

健康豚の腎臓1検体および病豚の腎臓1検体において直接法陽性であった。

・一般畜モニタリング

畜種	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数
牛	6	12	6	0
豚	27	54	27	0
鶏	0	0	0	0

◎BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査

令和5年4月～6月におけるBSEスクリーニング検査数は0件であった。

（平成29年4月1日以降、月齢24か月以上で、原因不明の神経症状及び起立不能を呈する牛を対象に実施）

発行：岡山市食肉衛生検査所

TEL：086-272-8399

FAX：086-273-2019

E-mail：shokunikueiseikensasho@city.okayama.lg.jp

郵送停止、メール配信希望等、ご要望ございましたら、お気軽に担当までご連絡ください。

1～3ページについて、ホームページでも公開しています。

<https://www.city.okayama.jp/0000022033.html>